

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

こんにちは、らくだです。

ノベル大賞 2018 の最終結果が発表されました。
今回は大賞 1 本と佳作 2 本が選出された模様です。

【発表ページ】

<http://orangebunko.shueisha.co.jp/novel-award/winners/2018year>

- ・ 応募総数 1,019 本
- ・ 1 次通過 429 本 (約 42 %)
- ・ 2 次通過 169 本 (約 17 %)
- ・ 3 次通過 46 本 (約 5 %)
- ・ 4 次通過 11 本 (約 1 %)
- ・ 最終選考 5 本 (約 0.5 %)

お名前を見て気付いたのですが、今回大賞を受賞された佐倉ユミさんは、過去 2 回も最終経験のある方です。

しかも今野緒雪先生の選評には「同じ作者とは思えないほど雰囲気違っていて驚いた」というコメントがありました。

これ……。

ちょっと凄くないですか……。

3年連続で最終選考まで行くのも凄いです、同じ作者とは思えないほど作風の使い分けができて、しかも今回は大賞に選ばれたわけですからね。

今回の受賞作は時代物のようですが、自分もコバルト文庫の読者として、刊行されるのが楽しみになりました。

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催されていた「スニーカー文庫《俺のラノベ》コンテスト 2」の結果が発表されました。

以下リンク。

受賞者の皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

https://kakuyomu.jp/contests/sneaker_editors_002/result

- ・ 応募総数 884 作品
- ・ 受賞作品 大賞 1 作品、特別賞 2 作品

以下、選評で気になったコメント。

「昨今のライトノベル市場は書籍の売り上げ減少に伴って、緩やかに縮小傾向です。その中でも売れる作品、好かれる作品というのはタイトルが読者の心をくすぐるものになっているのではないのでしょうか」

確かにそうかもしれませんよね。

最近「異世界転生したら〇〇で××だった」のように説明的なタイトルが多いですが、無料のネット小説が無数にあふれている現在、地味なタイトルではなかなか読者にクリックして読んでもらえないわけですし。

というわけで、ある意味スポーツ新聞の見出しのように、タイトルで興味を持たせることが今は特に重要なのかなと思います。

以上、「《俺のラノベ》コンテスト 2」結果発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

カクヨム甲子園の受賞者インタビュー第2弾が公開されました。
今回はロングストーリー部門で大賞を受賞した凧さんのインタビューです。

【カクヨム甲子園受賞者インタビュー】

<https://kakuyomu.jp/info/entry/2018073103>

<質問項目>

- ・ 小説を書き始めた時期ときっかけ
- ・ カクヨム甲子園に作品を応募した理由
- ・ 受賞作は着想から完成までどのくらいの時間をかけたか
- ・ 受賞作のアイデアは何から着想を得たか
- ・ 「テーマ」「構成」などの観点から工夫したこと、苦勞したこと
- ・ これから挑戦する高校生にアドバイスと応援メッセージ

いやちょっと……。

着想から完成まで 10 時間とか早すぎでしょ……。

ちなみにロングストーリー部門の規定字数は「8,000～20,000 字」です。
その気になれば不可能ではないですがそれでもかなり速筆ではないでしょうか。

なおこの賞の受賞者ということは、作者さんの年齢は 10 代後半だと思いますが、インタビューのどの項目を見てもすごく自信にあふれているのを感じました。

落選を何度も経験するとつい慎重になってしまいますが、やはりコンテストで受賞するには、これくらいの自信や勢いが必要なのかもしれませんね。

以上、カクヨム甲子園受賞者インタビューの話題でした。

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催されていた「ウォーカー presents 地元のイイ話コンテスト」の中間発表がありました。

以下リンク。

通過者の皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

https://kakuyomu.jp/contests/walker_contest/nominated

- ・ 応募総数 70 本
- ・ 中間通過 5 本
- ・ 通過率 約 7 %

このコンテストは、

- ・ 実話を題材とした小説であること
- ・ 規定字数は 80,000 字以上

という制約がありました。

そのせいか応募数はやや少なめだった印象です。

ただ応募数そのものは少なかったものの、新しい取り組みとして、こういう企画は面白いなと感じました。

架空のフィクションではなく、かといって完全なノンフィクションでもなくて、「実話が題材だけどフィクション要素も含まれる小説」ですからね。

方向性として難しい部分もありますが、実話が題材だとやはり読んでいて興味をひかれますし、こういうジャンルも今後発展して欲しいと思いました。

こんにちは、らくだです。

いよいよ夏本番！
夏といえばやっぱり怖い話！

というわけで。
カクヨムで都市伝説を募集する投稿企画が始まりました。

【#僕の私の都市伝説】

<https://kakuyomu.jp/info/entry/toshidensetsu>

- ・ 募集内容 地元や身の回りに伝わる都市伝説のショートショート
- ・ 選考対象 2018年8月17日以降に投稿された作品が対象
- ・ 受付期間 2018年8月17日（金）～8月31日（金）
- ・ 規定字数 2,500文字まで

<その他の注意事項>

- ・ 事実に基づくものから事実無根の作り話まで OK
- ・ 「読む」または「聞く」と呪われる類のものは NG
- ・ 固有名詞が出る場合はイニシャルなどでぼかすこと

都市伝説に関する思い出といえば、自分が小学生の頃は「トイレの花子さん」が有名で、みんな3番目の個室は避けてたなあーという記憶が。

でも最近のトイレってオシャレなので、個室の配置が変則的なケースも多くて、どこが3番目かわからなかったりしますよね。

まあ、だからどうってことも特にはないのですが、面白い都市伝説を知っている方は投稿してみたいかがでしょうか。

こんにちは、らくだです。

カクヨムでユーザーアンケートが始まりました。
所要時間は 10 分程度で主に選択式のアンケートです。

【ユーザーアンケート】

https://kakuyomu.jp/info/entry/kakuyomu_enq_1808

このアンケートの中に「Web 小説を探す際に重視している要素」という項目があります。

ちょっと長いですが選択肢をコピー。
最近のトレンドがよくわかる内容だと思います。

異世界転生、異世界転移、俺 TUEEE、チート、スキル、ハーレム、パーティ追放もの、ダンジョンもの、スローライフ、悪役令嬢、公爵令嬢、聖女、中華後宮、婚約破棄、政略結婚、お店経営（カフェ etc...）、乙女ゲーム、その他

うーん……。

やはり覇権は異世界転生か……。

すでにお腹いっぱいな感じもしますが、それでも選択肢の最初に載っているからには、今でも根強い人気があるのでしょうね。

もちろんトレンドを無理に意識したりせずに、ひたすら自分の書きたい物を書くのもいいですが、データとして面白いと思って紹介しました。

ちなみに質問項目は他にもたくさんあるので、気になった皆様は、アンケートページをチェックしてみてください。

【第4回】今の電撃に足りないのは- 2018.08.07 Tue

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催中の「電撃《新文芸》スタートアップコンテスト」。
その応援企画として関係者のインタビューが順次公開されています。

第4回の今回は書店のライトノベル担当者お2人が登場。
コンテストに参加予定の方々は必見の内容となっています。

【第4回「今の電撃に足りないのはコレだ！」】

<https://kakuyomu.jp/official/info/entry/2018/08/03/210000>

この連載企画にはこれまで色々な立場の方が登場しました。
ただ根底には毎回同じメッセージがこめられているように感じます。

それはつまり、
「自分の書きたいと思う物を、思いっきり、最大限の熱量をこめて書く」

言葉にするとなんだか当たり前だし、すごく簡単っぽく見えますが、これが実は難しいことなんですよ。

特に自分のように落選回数が増えると「こういう展開はウケないかもな」「この内容では通過できないだろう」という感覚が無意識にわいてしまっ。

この状態を一言で言うと「選考ありき」になっているというか。

もちろん選考を意識するのも大切なんですけど、その前にまずは自分本人が楽しみながら書くことが、面白い作品を生み出す秘訣なのかなと思います。

以上、「今の電撃に足りないのはコレだ！」連載企画の紹介でした。

こんにちは、らくだです。

今年は変わった動きをする台風が多いですね。
逆走したり迷走したりまるで自分の投稿生活を見ているようです。

さてさて。

文学フリマ短編小説賞 2018 の結果発表がありました。

今回は大賞 2 本と優秀賞 2 本が出た模様。
受賞された皆様はおめでとうございます。

【公式サイト】

<https://buntan2018.hinaproject.com/>

【なろうブログ】

<https://blog.syosetu.com/?itemid=3627>

大賞作品には書き下ろしのイメージイラストが用意されます。
自分の小説に絵がつくのは作者にとって何より嬉しいことですよね。

なお受賞作品をまとめた冊子は第 6 回文学フリマ大阪にて販売されます。

【第 6 回文学フリマ大阪】

<https://bunfree.net/event/osaka06/>

お近くの皆様は立ち寄ってはいかがでしょうか。
自分も近所なので時間が合えば覗いてみようかと思っています。

以上、「文学フリマ短編小説賞 2018」結果発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

電撃文庫 MAGAZINE の投稿企画「びっくりするような擬人化作品」の受賞作品が決定した模様です。

以下リンク。

受賞された皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

<https://kakuyomu.jp/info/entry/2018/08/09/000000>

- ・ 応募総数 343 作品
- ・ 受賞作品 最優秀賞 1 作品、優秀賞 10 作品

個人的イチオシ作品

[『ジャスコ対商店街』\(アルキメイトツカサ\)](#)

これ面白いです。

作者のセンスに本気で嫉妬するレベルです。

実際に読むとわかるのですが、擬人化をしっかりと活用した内容になっていて、最後はちゃんとハッピーエンド(?)で終わる点も好印象。

ちょいちょい出てくる小ネタも面白く、「実名出して平気？」という不安を吹き飛ばす、謎の勢いに満ちたストーリーでした。

擬人化にも色々あると思いますが、こういうアプローチもあるのだなと、ひとつ勉強になった気がします。

以上、「びっくりするような擬人化作品」結果発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

カクヨムで新企画「電撃文庫『青ブタ』アニメ化記念・青春小説コンテスト」が始まりました。

【青春小説コンテスト】

https://kakuyomu.jp/info/entry/seishun_mini_contest

- ・ 募集内容 『思春期症候群』を題材にした短編小説
- ・ 応募締切 2018年9月9日(日)
- ・ 規定字数 1,000~5,000字
- ・ 選考対象 2018年8月9日以降に投稿された作品
- ・ 受賞特典 選評つきで『電撃文庫 MAGAZINE Vol.65』に掲載予定

今回は応募部門が2つあるので要注意。

完全オリジナルキャラクターの部門と二次創作の部門があります。

A. 鴨志田一賞

『思春期症候群』を題材にした上で完全オリジナルキャラクターの投稿作品

B. 電撃文庫編集部賞

『思春期症候群』を題材にした上で既存キャラクターを使用した二次創作の投稿作品

応募リストを確認したら、オリジナルの方がやや多い印象でしたが、どちらの部門もこれから盛り上がって欲しいですね。

以上、青春小説コンテストの紹介でした。

こんにちは、らくだです。

昨日のアクセス妙に多くね？

8 月 10 日ってなんかあったっけ？

コミケ初日と小説投稿は関係ないよな？

と思ったら電撃の発表日じゃないですか――！

すみません……。

こんな大事な日を忘れるなんてワナビ失格です……。

【発表ページ】

http://dengekitaisho.jp/announce_25_01.html

- ・ 応募総数 4,843 本
- ・ 1 次通過 510 本 (約 11 %)
- ・ 2 次通過 213 本 (約 4 %) < NEW! >
- ・ 3 次通過 93 本 (約 2 %) < NEW! >

というわけで 2 次と 3 次が同時に発表されました。

ここ数年ずっとそうなので今後はこの方針でいくのでしょうか。

しかしアレですよ……。

この発表方法の難点は「2 次通過で 3 次落選の場合」喜べない点ですよ……。

まあでも選考が早くなったのはいいことですし、落選だった皆様もうまく気持ちを切り替えて、めげずに次の作品へ進んでいきたいところです。

以上、電撃 2 次発表 & 3 次発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

今回は発表の話題を 2 つお届けします。

まずはえんため大賞ファミ通文庫部門の最終候補発表について。

【発表ページ】

http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/famitsubunko_20entry.html

- ・ 応募総数 520 本
- ・ 1 次通過 94 本 (約 18 %)
- ・ 2 次通過 9 本 (約 2 %)
- ・ 最終候補 3 本 (約 0.6 %) < NEW! >

そしてもう 1 つ。

ビーズログ小説大賞の 2 次発表について。

何度も書いている通り、この賞はえんため大賞の女性向け部門でしたが、今回の募集からビーズログ大賞として大幅にリニューアルしました。

【発表ページ】

http://bslogbunko.com/bslog_award/index.html

- ・ 応募総数 522 本
- ・ 1 次通過 64 本 (約 12 %)
- ・ 2 次通過 17 本 (約 3 %) < NEW! >

1 次通過はファミ通の方が多いですが、2 次は逆転してビーズログが多かったり、こうして並べると違いがわかって面白いですね。

以上、えんため系の発表の話題× 2 でした。

毎日暑い！

こんな時は暑さを吹き飛ばすスパイシーな料理！

というわけで。

大阪市西区のインド料理店『カアマデヌ』でインドカレーを食べました。

見てください。

このナンの大きさときたら。



皿から飛び出す特大のナンはお店で焼いています。

出来立てアツアツの状態を食べられるのは嬉しいですね。

ちなみに私、今まであまり縁がなく、インドカレーを食べたのは今回が初めて。

そんなわけでドキドキしていたのですが、「辛さ：普通」を選んだこともあり、まろやかで優しい味わいのカレーでした。



こちらはカレー2種のセット。

手前はエビカレーで緑のはホウレンソウとチキンのカレー。

緑のカレーは見た目のインパクト大ですが、なめらかな野菜スープに似た味わいで、これがナンに染み込んでとってもおいしい。

これまで本場のインドカレーと聞くと、とにかくスパイシーで刺激的なイメージでしたが、実際に食べてみて印象が変わりました。

【インド料理店『カァマデヌ』】

<https://tabelog.com/osaka/A2701/A270105/27075154/>

なお今回はエビとチキンのカレーでしたが、日替わりでマトンカレーもあるようなので、羊肉大好き人間として一度食べてみたいと思います。

【第5回】今の電撃に足りないのは- 2018.08.14 Tue

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催中の「電撃《新文芸》スタートアップコンテスト」。
その応援企画として関係者のインタビューが順次公開されています。

第5回の今回はラノベ好き Vtuber・本山らの氏が登場。
コンテストに参加中の方々は必見の内容となっています。

【第5回「今の電撃に足りないのはコレだ！」】

<https://kakuyomu.jp/official/info/entry/2018/08/10/210000>

特に気になった部分を以下に抜粋。

このコメントは Vtuber ならではの視点だと思います。

「時代に即応した小説」が読めると面白いな、と思います。

例えば、新しい SNS を通したコミュニケーションや、バーチャル YouTuber などの新しい文化。

そういったものを、ウェブ小説ならではのフットワークの軽さを生かして敏感に取り入れて物語の演出に
落としこむことに挑んでいる作品、2018 年の今だからこそ書ける「新文芸」が読んでみたいです。

これは確かにそうですね。

ネット小説って読者にダイレクトに届くので、応募から出版まで時間のかかる従来の公募と比べて、フットワークの軽さが大きな魅力でもあります。

せっかく新レーベルを立ち上げるわけですし、そこを意識するのも重要だなあーと、このインタビューを
読んで改めて感じました。

こんにちは、らくだです。

コバルトの人気連載「小説を書くためのプチアドバイス」が更新されました。

第 14 回目となる今回は「小説を書くための取材で覚えておきたい 3 つのポイント」という興味深い内容です。

【小説を書くためのプチアドバイス】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/column-miura-shiwon/002423/>

プロの作家ならともかく、単なる投稿者にとって、取材は敷居が高いもの。

自分はそう感じていますが、そんな状況でどうするべきか、上のページに詳しい助言が書かれています。

基本的な要点は以下の 3 点。

筆者の三浦しをん先生が実際に使っている方法だそうです。

1. とにかく言いふらしてツテを探す。「友だちの友だちはみな友だちだ」戦法。
2. 資料を読んだり話を聞いたり現場に行ったりと、自分で動く。必要に応じて、「立ってるものはなんでも使う」戦法を発動する。
3. 相手を邪魔せず、しかし自分の心の動きに正直に見学したり質問したりする。

とにかく一番大切なのは、

「相手の都合を尊重し、敬意を持って、話に耳を傾ける」

小説の取材はもちろんですが、これは普段の人間関係においても非常に大事なことなので、心に深く留めておきたいです。

先月から FGO を始めたのですが、今やっている夏イベの内容が「ハワイで同人誌を作る」で、何のゲームかわからない状態です。

なぜ同人誌……。

世界を救うゲームじゃなかったの……。

なんて思いきや、いざ始めたら自分自身がワナビなせいか、共感してしまう部分が予想以上にたくさんありました。

終わらない執筆作業。

これでいいのかという不安。

頑張ったのに結果が出ないことの悔しさ。

なんかもうね。

どれも身に覚えがあるので「あああああああ」って気分になりますよね。

中でも印象に残ったのは次の台詞。

あまり正確じゃないですがだいたいこんな内容でした。

「私たちは素人。技術や技巧ではプロに勝てない。だからこそせめて情熱の部分で負けちゃいけない」

うん。

これは確かに。

技術の面でプロに劣る素人が、仮に情熱を失ってしまったら、勝てる部分は本当に何もなくなってしまうですよ。

というわけで。

自分は素人ですが、素人だからこそ、情熱は大切なんだと再確認した次第です。

こんにちは、らくだです。

第 195 回コバルト短編小説新人賞の発表がありました。
2 週間遅れの記事ですが入選された方はおめでとうございます。

【発表ページ】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award/no195/>

今回気になったのは『ハッピーエンドのそのつづき』の選評の真ん中あたり。
どういう視点でストーリーを描写するかで編集さんの意見がわかれています。

編集 A 「寓話風や日記形式にしたらどうか」

三浦先生 「日記形式では枚数を食うし、寓話風にもしない方がいい」

編集 B 「寓話風だと客観的になりすぎて、読者に臨場感が伝わらないと思う」

編集 C 「ベルツ視点は？」

三浦先生 「描き方にもよるがそれも難しい気がする」

まるまるコピーすると長いので、部分的に省略しましたが、だいたいこんなやり取りです。

たとえばこれが評価シートだったら、編集 A さんが担当した場合「寓話や日記形式で書くといい」と言われて、編集 C さんが担当した場合「ベルツ視点で書くといい」というアドバイスを受けるわけですね。

でも実際は、編集者によってこれだけ意見が違うわけですし、だからこそ座談会形式のコメントは面白いし勉強になると思います。

以上、コバルト短編の発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

8月18日は「高校野球記念日」なんだとか。
甲子園の熱戦もいよいよクライマックスですね。

というわけで。
本日は高校野球に関するコンテストをご紹介します。

【高校野球はがきエッセーコンテスト】

<http://www.asahi.com/ad/kouya-essay2018/>

- ・ 募集内容 高校野球にまつわるエッセー
- ・ 作品締切 2018年8月31日（金）
- ・ 応募方法 郵便はがきで応募
- ・ 規定字数 200字以内

うん？
ちょっと待って？

なんかこれ、賞の名前が「はがきエッセー」で、説明にも「はがきで応募」って書いてあるのに、上のページ見たら普通にネット応募のリンクあるんですけど？

いやまあ便利でいいんですが「ラーメン専門店のメニューにさり気なくカレーが混ざってた」みたいな違和感を覚えました。

それはさておき規定字数も200字ですし、上に書いた通りインターネット応募もできるので、甲子園に思い出のある皆様は挑戦してみてもいいのではないでしょうか。

以上、「高校野球はがきエッセーコンテスト」の紹介でした。

こんにちは、らくだです。

カクヨムで開催中の「電撃《新文芸》スタートアップコンテスト」。
その応援企画として関係者のインタビューが順次公開されています。

最終回の今回は人気作家の野まど先生が登場。
コンテストに参加中の方々は必見の内容となっています。

【最終回「今の電撃に足りないのはコレだ！」】

<https://kakuyomu.jp/official/info/entry/2018/08/17/210000>

なに……？

これは……小説……？

というわけで今回は短編小説風のアドバイスです。
この遊び心はさすが野崎まど先生といった感じでしょうか。

なお結論としては「今の電撃文庫に足りないもの、それは誰も歩んだことのない道を切り開く『フロンティアスピリッツ』」ということでした。

ちなみに私、誰も歩んだことのない分野に挑戦するべく、『好きです、ザビエル様っ！』という宣教師萌えの作品を送りましたが、評価シートに「残念ながら需要がありません」と書かれて落選した経験が。

なんでや！

フロンティアスピリッツ発揮したやろ！

まあそれは自分がアホなだけで、未知の分野に挑戦すること自体は確かに大切だと思いますし、これからは方向性を間違えずにチャレンジしたいと思いました。

こんにちは、らくだです。

第 26 回一筆啓上賞「日本一短い手紙」が作品を募集中です。

以下、応募要項のリンク。

郵便局に応募用紙が置いてありますが普通の便箋でも応募できるようです。

【応募要項】

<http://maruoka-fumi.jp/ippitsu.html>

- ・ 募集テーマ 「先生」
- ・ 規定字数 1~40 字（手紙形式）
- ・ 作品締切 2018 年 10 月 26 日（金）
- ・ 応募方法 封書で郵送（1 通につき 1 作品）
- ・ 受賞賞品 大賞（5 本・賞状と 10 万円）など

自分は今回初めて知りましたが、この賞は全国初の手紙コンクールとして、平成 5 年から毎年開催されているんだとか。

コンテストの目的は、

「活字やメールでは伝わらない本物の手紙文化の復権を目指す」

というわけで応募方法は郵送オンリー。

一応探してみましたがネット応募のリンクはありません。

まあでも、こんな便利な時代だからこそ、手書きの手紙に切手を貼って投函するという経験は貴重ですよ
ね。

テーマは「先生」ですが学校の先生だけでなく、監督やコーチや病院の先生でもいいようなので、皆様
チェックしてみてもいいのではないでしょうか。

こんにちは、らくだです。

コバルトイラスト大賞の受賞者ギャラリーが登場しました。

過去の受賞作品はもちろん、受賞者さんが描かれた新作イラストや、個人サイトへのリンク（一部）などが見られます。

小説とは関係ない話題ですが、イラストを見ると想像力が膨らみますし、投稿者の皆様もチェックしてはいかがでしょうか。

【イラスト大賞ギャラリー】

http://cobalt.shueisha.co.jp/contents/illust_prize_winners_gallery/

自分は技術的なことはよくわかりませんが、女性向けのイラストって、全体的に線が細くて華やかな印象ですよ。

ワイもコバルトでデビューするんや……。

そんでこの中の絵師さんに表紙を描いてもらうんや……。

あと、夢咲ミルさん素敵だなーと思って個人サイトを見たら、FGO と刀剣乱舞のファンアートがいっぱいで思わずニッコリ。

三日月や小狐丸やオジマンディアスなどを描かれています。

上のギャラリーからリンクできますので審神者とマスターの皆様は是非。

なおコバルトイラスト大賞は、先月7月末の締切りをもって、リニューアル期間に入りました。

なので現在は募集休止中ですが、近いうちにパワーアップして再登場するようなので、情報を楽しみに待ちたいです。

こんにちは、らくだです。

今更ながら7月分のブログをパブで公開しました。
すでに8月も下旬ですが忘れていたのでリンクを紹介。

【らくだ図書館 (76)】

<http://p.booklog.jp/book/123258>

さてさて。

本日は京橋のインド料理店「アルナーチャラム」でインドカレーを食べました。

写真はカレー2種類にライス、サラダ、スープが付いたランチセット。



ナンが……。

すごく……大きいです……。

まるで座布団のようなサイズ感。

ナンはお代わり自由ですがさすがに1枚でお腹いっぱいです。

ところで自分が小学生だった頃、学校給食は、写真のような金属の食器でした。

しかしその件を友達に話したら、「うちは普通の食器だったよ？」と言われて、ものすごくビックリされてしまった記憶が(汗)

なんでや！

ひょっとして昭和のせいかな！

それはさておき、最近インドカレーにハマっているので、機会があればまた他の店にも行ってみたいです。

台風 19 号「聞いたか？ 12 号のヤツ、逆走した後リターンしたってよ」

台風 20 号「マジかよ、俺らアイツのインパクトに勝てねえじゃん」

台風 19 号「そこでだ、お前とタッグを組みたい（ニヤリ）」

台風 20 号「タッグ……だと？」

みたいな想像をしました。

いや本当、今年の台風はおかしいですし、被害なく過ぎ去ることを願います。

さて本題。

ドラゴンブック新世代ファンタジー小説コンテストの中間発表がありました。

以下リンク。

通過者の皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

https://kakuyomu.jp/contests/dragonbook_contest/nominated

- ・ 応募総数 808 本
- ・ 中間通過 45 本
- ・ 通過率 約 6 %

通過作で気になったのは、

『あらやだ！ 転生しちゃったわ！ ～おばちゃん無双～』橋本洋一

キャッチコピーは「大阪のおばちゃん、異世界で無双する」。

しかも一発ネタの短編ではなく、なんと 20 万文字を超える超大作。

とりあえず序盤から読んでますが、こういう変化球が楽しめるのはネット小説の大きな魅力ですし、応援したい作品だと思いました。

こんにちは、らくだです。

今年もアルク翻訳コンテストの募集が始まりました。

実施部門は出版翻訳、実務翻訳、字幕翻訳の3部門。

課題の英文はそれぞれ下記ページで確認することができます。

【アルク翻訳コンテスト 2018】

<https://www.alc.co.jp/translator/article/tobira/contest2018.html>

- ・ 投稿締切 2018年10月31日(水)
- ・ 結果発表 2019年2月15日(金)
- ・ 点数制限 1部門につき1人1作品
- ・ 応募方法 ウェブ応募のみ受付
- ・ 受賞特典 大賞(賞金3万円)など

どれ……。

力試しにちょっと課題を読んでみるか……。

と思ってページを開いたら、自分で英文を読むまでもなく、グーグル先生が勝手に翻訳してくれました。

グーグル先生！

今は出番じゃありませんから！

まあせっかくなので先生の訳文も読みましたが、なにせ自動翻訳なので、意味はわかるけど自然な日本語とは言えない感じ。

なので、これから翻訳ソフトがさらに発達しても、やはり自然な翻訳には人間の力が必要なのかなと感じました。

こんにちは、らくだです。

ウェブコバルトの投稿企画「IT 社長イケガミコフの脚本賞」の結果が発表されています。

以下リンク。

入選された皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

http://cobalt.shueisha.co.jp/contents/ikegami_award/

今回の発表は少し変則的で「7月29日から6週連続で1本ずつ発表」という形式を取っています。

この発表はどうなんでしょうね……。

送った方としては心臓に悪いような……。

いやでも毎週チャンスがあるとも言えますが……。

なお入選作品は、イケガミコフさんの会社「サクラス」で働くインターンの大学生が朗読し、動画として公開。

さすが入選作なので文字で読んでも面白いですが、朗読で聞くとまた少し印象が違って、こういう取り組みは新しいなあーと感じました。

ちなみに現在は6本中の5本まで公開中。

6本目の入選作は来週公開されるのでそちらも楽しみにしたいです。

以上、「IT 社長イケガミコフの脚本賞」発表の話題でした。

こんにちは、らくだです。

今日は薬膳・漢方検定を受けてきました。
その名の通り薬膳と漢方の知識をはかる検定です。

【薬膳・漢方検定】

<https://www.kentei-uketsuke.com/yakuzen-kampo/>

会場は吹田の関西大学でした。
受験者はだいたい 200 人程度で女性が多かったように感じます。

なお試験の出来ですが……。
思ったより難しく時間も足りず……。

参考書に食材が 100 種類くらい載っていて、それぞれの属性を知っておく必要があるのですが、これがなかなか覚えづらくて厄介なのです。

【なつめ（棗）】

- ・五味 甘（味と働き）
- ・五性 温（温・熱・平・涼・寒）
- ・帰経 心・脾（五臓のどこに作用するか）

五味と五性はイメージでわかるけど帰経が……。
食材に関する問題はだいぶ間違ったと思われそうです……。

ちなみに漢方理論の分野で「五行説で西方を守る四神は？（答：白虎）」という問題が出てそれは確実に正解しました（中二病）

そんなこんなの日でしたが、せっかく勉強して受けたのですし、合格していることを願います。

こんにちは、らくだです。

もうすぐ前期ファンタジア大賞の締切ですが、公式サイトに注意事項がアップされています。

以下、該当ページへのリンク。

投稿予定の方々はあらかじめ確認しておきたいですね。

【投稿上の注意】

<https://www.fantasiataisho.com/news/#n562>

- ・アカウント登録は事前に済ませよう
- ・名字と名前の間は1マス空けて登録すること
- ・応募歴はどんな賞に何回くらい応募したか分かるように
- ・事前にアップロードを試して確認画面が表示されるかチェック
- ・マイページ内の上部にある「アップロードガイド」をよく読もう
- ・再投稿は禁止なので投稿ミスなどやむを得ない場合は問い合わせを
- ・締切当日の問い合わせ対応は17時までなので余裕をもって投稿しよう

あと地味に気になったのは、投稿フォームの備考欄に書いてある「作品の説明や意気込みは不要です」という注意事項。

せやな……。

あの時はすまんかった……。

(前に意気込み書いたことあるヤツ)

(その方が評価が上がるものと思ってた)

(いや上がらないよね履歴書じゃないんだし)

まあそれはそれとして、注意事項はどれも重要なことばかりなので、投稿予定の皆様は念のためチェックして損はないかと思います。

こんにちは、らくだです。

第 14 回 MF 文庫 J ライトノベル新人賞の最終発表がありました。

通期の応募総数は 2,049 作品。

その中から 4 作品が受賞となった模様です。

以下リンク。

受賞された皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

<http://bc.mediafactory.jp/bunkoj/award/result/14/>

ところでチェックが遅れましたが、第 4 期で 1 次通過していた 83 歳の投稿者さんは、今リストを見たら残念ながら 2 次落ちだった模様です。

うう……。

このお方には是非とも受賞して欲しかった……。

でも 83 歳の投稿者さんがいて、しかもあの MF で 1 次通過したということに、自分は勇気をもらいました。

その事実を思い起こすと、年齢を理由に諦め半分になっている自分が恥ずかしいというか、結局のところ「自分の限界を決めるのは自分自身」なんだなって感じますよね。

というわけで、このおじいちゃん（馴れ馴れしい）には頑張っって欲しいですし、自分も後輩として負けずにもっと頑張ろうという気分になりました。

オレ達の投稿生活はこれからだ！

こんにちは、らくだです。

例によって遅すぎる記事ですが、第8回集英社ライトノベル新人賞（前期）の2次発表があったので、リンクを紹介しておきます。

【発表ページ】

<http://dash.shueisha.co.jp/award/dx8thAwardEarly/result.php>

- ・応募総数 270 本
- ・1次通過 60 本（約 22 %）
- ・2次通過 17 本（約 6 %）

通過作で気になったタイトルは、
『毎日殺伐！日めくり暴言カレンダー！』しゃけ

暴言カレンダー？
名言カレンダーじゃなくて？

というわけで、自分も暴言カレンダーの内容を考えましたが、いざ想像してみると暴言って意外と難しいなあと。

単にバカとかアホとかじゃなくて……。
もっとこう精神ダメージを与えるような……。

そして辿り着いた最高の暴言。
「今日の進捗 0文字」

いや暴言じゃないですがワナビにダメージを与える言葉ですよ。

それはさておき、3次発表は9月発表予定なので、サイトが更新されたらまた紹介したいと思います。

こんにちは、らくだです。

小説家になろうと MBS のコラボ企画「MBS ラジオドラマ短編小説賞」の第 2 回募集がまもなく始まり
ます。

詳細は公式サイトをご覧ください。

【MBS ラジオドラマ短編小説賞】

<https://syosetu.com/event/m-radio2018/>

- ・ 規定字数 30,000 字以下（要完結）
- ・ ジャンル 推理、ホラー、アクション、コメディ
- ・ 受付期間 2018 年 9 月 1 日（土）～10 月 31 日（水）
- ・ 受賞特典 MBS「マンデースペシャル」でラジオドラマとして放送
- ・ 応募方法 なろうに作品を UP し「MBS ラジオ短編賞 1」のキーワードを設定

全 4 回となるこの企画、毎回豪華声優陣が登場しますが、第 2 回の担当は小野友樹さんと上坂すみれさん
に決定したとか。

というわけで。

受賞作の内容はもちろん声優さんの朗読も楽しみですね。

なおこのコンテスト、マイナージャンルの活性化が目的で、これから募集予定のジャンルは以下の通り。

第 3 回 VR ゲーム、宇宙、空想科学、パニック

第 4 回 童話、詩、エッセイ、その他

詳しくは募集開始時に改めて紹介したいと思います。

こんにちは、らくだです。

本日はえんため関連の話題を2つお届け。

まずはえんため大賞ファミ通文庫部門の最終発表について。

【発表ページ】

<https://www.enterbrain.co.jp/entertainment/awards/20n.html>

- ・ 応募総数 520 本
- ・ 1次通過 94 本 (約 18 %)
- ・ 2次通過 9 本 (約 2 %)
- ・ 最終候補 3 本 (約 0.6 %)
- ・ 受賞 2 本 (約 0.4 %)

最終候補3本から優秀賞1本と特別賞1本が選出されました。
後日公開されるであろう総評や受賞者コメントが楽しみです。

そしてもう1つ。

えんため大賞自作ゲームコンテストの締切が延長されました。

新たな締切は10月末。

当初の予定では9月末だったので1か月の延長ですね。

【自作ゲームコンテスト】

https://www.enterbrain.co.jp/entertainment/originalgame_2.html

締切延長=投稿数が少ないのでは……と勘ぐってしまいますが、何にせよ応募のチャンスが増えたのは喜ばしいことだと思います。

以上、えんため最終発表&締切延長の話題でした。